



竹のデザインが豊かな生活の発展に貢献する。

プロジェクトにおいては自分の気に入ったものだけをつくるのではなく、どうやって市場に繋げていくかということまで意識して欲しい。世の中にデビューした製品が次第に一人歩きして注目され、スタンダードとなることで人々の意識の中に、新しい素材として竹が認識されます。そうなったら今後生活の中の様々な分野で展開できるでしょう。竹の新製品を途上国の人々に提案し、自国で生産する仕組みをつくることによって経済的に自立するのを手助けできます。それは魅力的な竹製品のデザインをすることが、豊かな生活の発展のために貢献できるということなのです。

基礎デザイン学科教授
宮島慎吾
Shingo Miyajima



未知のデザインOSの可能性を明らかにする。

プロジェクトの目的は竹製品の完成形を生むことではなく、むしろ東南アジアや竹に潜む未知のデザインOSの可能性を明らかにすることです。

21世紀に輝きだすものももしかしたら竹籠を編むような伝統的な工芸技術なのかもしれません。20世紀は確かに素晴らしい発展を遂げたかもしれませんが、同時に様々な負荷を地球にも人類にもかけすぎてきました。今もつともデザインに求められるのは、これまでの経済基盤に乗った生活への意識をかえ、それを包含する文明に自省的に寄与するデザイン、生命観の見直しを主題とすることではないでしょうか。

基礎デザイン学科教授
板東孝明
Takasaki Bando